

第6回SJAC講演会を開催

—CO2の排出基準とGMBMに関して—

(一社)日本航空宇宙工業会(SJAC)は、さる1月13日(金)午後1時より、味覚糖UHA館TKP溜池山王カンファレンスセンターにて平成28年度第6回SJAC講演会を開催した。

昨年10月に開催された国際民間航空機関(ICAO)の第39回総会において、民間国際航空におけるCO2排出削減基準と市場メカニズムを活用した世界的な温室ガス排出削減制度(Global Market-Based Measure: GMBM)が合意されたので、CO2の排出基準とGMBMに関して、ICAOにより設立された航空環境保全委員会(CAEP)の中で活躍している3人の専門家から約50人の参加者に受講して頂いた。

はじめに日本航空株式会社 コーポレートブランド推進部マネジャー(環境担当)中島陸博氏から「国際航空のCO2削減義務化(CNG2020)とその対応策」と題して、エアラインにおけるCO2削減の取り組みと、2021年から開始されるGMBMへの対応を説明して頂いた。

つぎに株式会社三井物産戦略研究所 国際

情報部 シニア研究フェロー 本郷尚氏より「Global Carbon Marketと民間航空におけるCarbon Offset」と題して、世界的な温室ガス排出削減制度(Global Market-Based Measure: GMBM)の仕組みの中でCO2削減を実現するための制度であるCarbon Offsetの国際的な取り組みを説明して頂いた。

最後に三菱航空機株式会社 技術本部 機体設計部 商品性グループ 主席技師 中浜啓輔氏より「民間航空機に対するCO2排出基準について」と題して、航空機に対するCO2規制の経緯と2020年から適用される排出基準について説明して頂いた。

講演の要旨は以下の通りである。

国際航空のCO2削減義務化(CNG2020)とその対応策

ICAOは2020年以降に航空機から排出されるCO2を削減しながら成長を目指す施策(Carbon Neutral Growth 2020: CNG2020)を掲げており、国際航空運送協会(International Air Transport Association: IATA)も同様に2020



講師：中島 陸博氏



講師：本郷 尚氏



講師：中浜 啓輔氏

年からCO2排出量の頭打ち、2050年には2005年対比CO2排出量の半減という高い目標を掲げている。航空業界は燃料効率に優れた航空機への継続的な更新、機体及び搭載物の軽量化、運航の効率化等に取り組んでいるが、CNG2020達成には現時点ではバイオジェット燃料購入とCO2クレジット購入が必要である。昨年10月に ICAO で決まったスキームが Carbon Offsetting and Reduction Scheme for International Aviation (CORSIA) であり、技術面とPolitical面で分かれて検討されている。

Global Carbon Marketと民間航空におけるCarbon Offset

Carbon Offsetクレジットに使えるプログラムに対する基準は定まったが、具体的に使える

クレジットは今後決定される。クレジットの種類は大別して国連管理、各国政府の管理、地方政府の管理、民間管理の4種類あるが、いずれもパリ協定との整合性、Double Counting防止等の難しい課題がある。今後の排出量取引の動向と価格展望が紹介され、最後に CORSIAの長期的課題が示された。

民間航空機に対するCO2排出基準について

CO2規制値の指標 (Metric Value) がICAO資料 (Progress on the development of the ICAO CO2 Standard / Neil Dickson, ICAO, Environment Branch) に基づいて説明された。2020年からのCO2規制値の適用の具体例が4つの事例により説明され、非適用となる条件も示された。



講演会会場の状況

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 技術部部長 松田 隆〕